珠洲市狼煙町横山地区での，案山子の作成，生き物調査，祭りの復活などを通した、地域の共同体活動を活性化させるための取組課題

指導教員　金沢星稜大学　人間科学部学部　教授　池上　奨
参加学生　岩本祥聡・金子彩加・鈴鹿里菜・寺口幸平・長嶺淳平・水野成美・池田優次社昌志・曽良和生・東昂拓・小林真由子・永里旬・羽場史江・柳橋順子竹内理恵子・橋本恵莉佳・北川紗也加・細木静香・安原菜奈子・吉岡論美浦郁美

1. 調査研究成果要約

今まで素通りだった狼煙の道の駅に行く観光客が車を止め，記念写真を取るなど効果を挙げている。次年度も是非，案山子造りを行い，ゆくゆくは案山子サミットを行いたいと地元，横山地区では盛り上がっている。

学生達も良い体験が出来たと喜んでおり，是非次年度もと言っている。

2. 調査研究の目的

横山地区に１０年に渡り設置されてきた，夏の代名詞「人間そっくりなリアルな案山子」を，地域住民と共に作成する活動を行い，どう活かしていくかを地区住民と共に考え，作成して貰うことで，住民間での地域資源の再認識と，新たな共同体験活動のきっかけを作る。

3. 調査研究の内容

2011 年 8 月 19 日

子ども学科の学生と美術部の学生，総勢２１人が珠洲市狼煙町横山地区に赴いた。

午後より藁草履製作のため藁打ちから始める。

殆どの学生達は藁を編むという事が初体験であってなかなか苦戦していた。

横山地区のおばあちゃん達の手厚い指導のもと何とか造る事が出来た。

2011 年 8 月 20 日

午前中から地元の人の指導のもと案山子造りが始まった。

前日とは違いさすがに学生達は伸び伸びと案山子の製作に没頭していた。

夕食後，親睦を兼ねて地元の人達と交流会を行った。

8 月 21 日

この日も地元の人の指導でモグラ退治用のペットボトル風車を製作した。

完成後，近くの海岸に赴き，遊歩道設置など今後の地域資源の在り方など考察した。

午後より案山子を道路沿いの田んぼの畦道にセットしコンクールを兼ねて鑑賞した。

4. 調査研究の成果

横山地区でのアンケート調査

今回の企画を通して，横山地区の方々にアンケート調査に協力してもらった。横山地区には，合計で２７戸の家があり全ての家にアンケートを配布した。各家に１枚ずつ配布したアンケ

ートは２７枚あり，そのうちの２４枚を回収することができ，回収率は８９パーセントとほぼ返ってきた。回収できなかった３枚のアンケートは字も書けない位の高齢者であった。

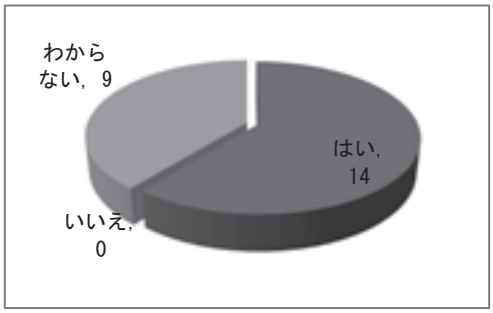
アンケート内容

基本事項　「案山子作りに参加していただけましたか？」

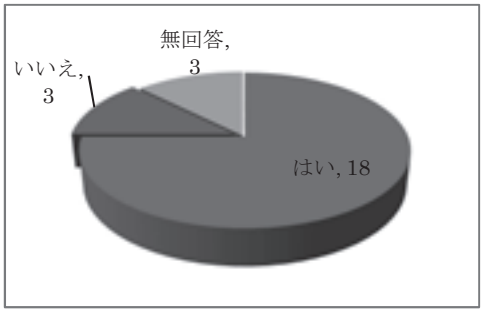
参加して頂く事が出来たのは１１名，不参加１３名，無回答３名という結果になった。横山地区で行った初めての企画としては十分な参加者が得られたと思う。この企画に参加して頂けた皆さんは学生達に対して，とても歓迎した雰囲気でやさしく嬉しそうに迎えてくれた。横山地区をアピールするために，快く参加して頂けたと思う。今回は残念ながら参加して頂けなかった横山地区の皆さんの意見として，一番多く挙げられたものとしては「年寄り，老人だから」というものが多かった。やはり年をとると，「作業をしている中に年寄りがいると邪魔になって申し訳ない」や「参加はしたいが体が動かなくて邪魔になると申し訳ない」と感じると答える方が多い。次回このような企画を行うとしたら，このように思っている方たちにも参加していただけるように，準備段階から積極的に横山地区の方々と接していくことが，必要であると考える。

１．「今回の企画を行い横山地区に少しでも何らかの効果となる事はありましたか？」

「はい」と答えた方は 14 名，「いいえ」と答えた方 0 名，「わからない」と答えた方は 9 名だった。「いいえ」と答えた方はいなかったが，きっと気を使って「わからない」と答えてくれた方もいると思う。「はい」と答えた方に「どの様な効果がありましたか？」という質問をしたところ，ほぼ全て「観光客や車で通行している人が写真を撮っていた。このことで集落のアピールになった」という回答を得た。14 人が口をそろえてこの様な回答をしたという事は，今後この企画を続けていく事で，横山地区の夏の名物になっていき観光客が多く訪れるようになってほしいと考えていると思われる。

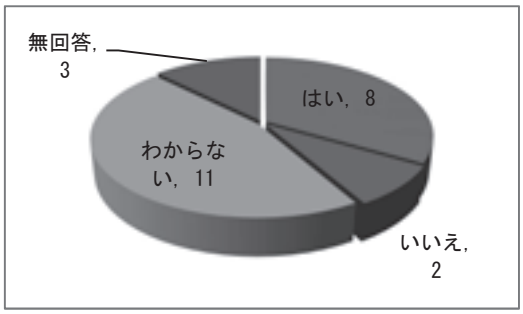


２.「今後もこのような企画があれば行っていきたいとお考えですか？」　「はい」と答えた方は 18 名，「いいえ」と答えた方 3 名，無回答 3 名という結果になった。「はい」と回答して頂いた方はほとんどが今回の企画に参加して頂いた方だった。「いいえ」，「無回答」と答えた方は，「面倒くさい」と感じたのか，「あってもなくても一緒」だと感じたか，だと思う。この様な回答を頂いたことも有難いと思う。厳しい意見を頂くことで，次回の企画にも繋がり，今後この様な意見が減るように努力をすることが出来る。この回答から今回の企画が横山地区の住民に受け入れてもらえたと判断しても良いと思われる。それに次回にこの様な企画があるなら，今回よりも質の高い企画を望んでいると捉えてもいいのではないだろうか。そうする事で次々回につながる，より「名物」と呼ばれる企画に近づくと考えられる。



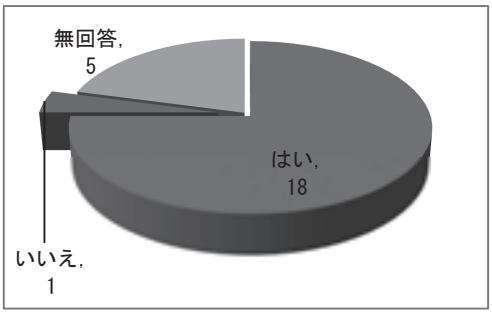
３.「案山子作り以外で横山地区で行いたいと思う企画・やってみたらいいと思う企画はありますか」

「はい」と答えた方８名，「いいえ」と答えた方２名，「わからない」と答えた方，11 名，無回答 3 名という結果になった。「いいえ」と回答した方，無回答の方は，「案山子作りのままでいい」と感じたか，「したくない」と感じた方だと考える。逆に「はい」と回答して頂けた方からは，色々な意見があった。多くあったのは「田植えから稲刈り」という意見だった。学生としてはとてもいい体験だと思う。あとは意見というよりも要望に近いもので「海岸へ降りる道の整備を行って欲しい」という意見もあった。今回のアンケートで頂けた意見を是非来年の企画に活かしたいと考えている。



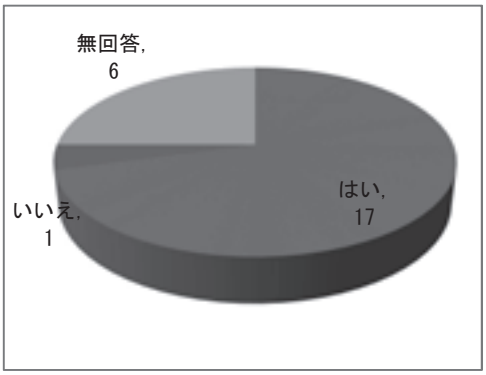
４.「今回の企画のように都市生活になじんだ若者と触れ合う機会は，今後も継続して必要であると思いますか」

「はい」と答えた方 18 名，「いいえ」と答えた方 1 名，無回答 5 名という結果になった。この機会は学生にとっても必要なものであると思う。田舎の年寄りと話をすることで，「昔ながらの田舎の考え」を知ることも出来るし，「現代の考え方とは違う考え方」を聞くことが出来るかもしれない。このことが自分にとってプラスになることもあるかもしれない。と考えれば，この様な機会はあった方がいいと思われる。



５.「企画準備段階での学生との交流はあったらいいと思いますか？」

「はい」と答えた方 17 名「いいえ」と答えた方 1 名，無回答 6 名という結果になった。今回の企画は本番だけを学生が横山地区にいって行うという形になった。このアンケート結果からやはり，準備段階から学生も横山地区を訪れなければならないと感じた。



６.「私たち学生も初めての経験で，至らないところが多くあったと思います。何かあったらお書きください。」

やはり事前準備の事が多く書かれていた。この事に関しては次回からは参加する事が出来ると考えている。今回の目的は「成功」，次回からは「学生の企画」という様に捉えるのが妥当であると考える。

７.「その他何かありましたらご自由にお書きください」

回答８名，無回答 16 名となった。回答してくれたうちの３名が今回の企画に参加していない方だった。戴いた答えとしては，61 歳・女性：不参加「表情豊かな案山子を，一列に並べてありましたがもう少し工夫すればよかったと思う。」今回は案山子が少なかったので次回があるときは，そのようにしていきたい。81 歳・女性：不参加「遠くから来られた人たちが車を止めたり車から降りて写真を撮ったりして行かれる姿に案山子さんを作った人たちも喜んでおられると思います。」54 歳・女性：不参加「1 つの田んぼに集めるのではなく横山地区全体の田んぼに立てた方が良かったという意見もありました。」49 歳・男性：参加「いろんな面白い案山子が出来上がり，楽しませて頂きありがとうございました。（ご苦労様でした。）」63 歳：参加「お昼頃，通ったら弁当を食べておられました。（外で）何か味噌汁でもあげれば良いと思います。帰り，トイレがすごく汚れていました。終わったら出られる方が掃除したら良いと思いました。」これは汚したものは自分で綺麗にするという事が出来ていないので反省・改善するべきである。54 歳・男性：参加「冬に納豆を作って交流しても楽しいと思います。」37 歳・男性：参加「このアンケートは学生さんが直接聞き取りされるとよかったと思います。自由記述が多く，誰かが質問をしながらでないと答えづらい人が多いのではないでしょうか。もしくは全て選択式の設問にしてあげれば良かったかもしれません。」高齢者が多い地区では，聞き取りの方が多くの意見を頂けると感じた。64 歳・男性：参加「今回の企画を続けながら今後集落の活性化につなげていきたい。」これだけの意見を頂いた。これは有難い事だと感じた。参加されなかった方からも意見を頂くことで 2 つの視点から見直すことが出来る。この意見の中で 1 番感激したのは，64 歳・男性：参加「今回の企画を続けながら今後集落の活性化につなげていきたい。」という意見だった。この意見は 1 人だけから頂いた意見だが，この企画を続けていくことで地域の活性化につながると感じる人が 1 人でもいたことが嬉しかった。見てもらえてこそ案山子を作った甲斐があった。今回採ったアンケートで言われた事に気を付けて，そしてこう思う人が 1 人ずつでも増えていくことを望んでいる。

5.　調査研究に基づく提言

今回の企画の２日目に，横山地区と金沢星稜大学で行った交流会では，地区の方々に様々な意見を頂いた。先ずは今回行った「案山子作り」に関連する話で，今回の企画では案山子を４０体以上作って田んぼに立てた。割と大きな案山子を作ったのだが，４０体作っても数多くある田んぼの１面の１辺を埋めることしかできなかった。もし次回もこのような企画を行うとしたら,「案山子サミット」と銘打つ企画を行いたいと, この企画に参加してくれた方々は言っていた。まだ次回にこのような企画が決まっているわけではないし，みんな頭の中だけで考えていることなのだが, 簡単にまとめるとするなら,「今年より多くの案山子を作り（目標は１００体以上の制作)，作った案山子同志が会議をしているような風景を作りたい」ということであると思う。きっとこれは１回の企画で，宣伝効果が表れる企画だと思う。今回の「案山子作り」を行っただけでも，新聞に載ったり，多くの観光客が写真を撮ったり，見に来ていたと，横山地区の方から聞いた。ただ並んで立っているだけの案山子で，これだけの効果があるのだから，個性あふれる案山子たちが輪を作り何かを話しているようにしていたら，今回の企画よりも大きく新聞に載るだろうし，観光に訪れた人たちも，より興味を示してくれると考える。今では携帯電話やパソコンも発達しているので，インターネットや掲示板，ツイッター等に書き込みをしてくれる人もいるかもしれないし，それらを見て新たに横山地区に訪れる人がいるかもしれない。そのようなわずかな可能性をも考えるならこの企画は，横山地区のためにも，珠洲市のためにも行っていければいい企画だと考える。

次に，次回またこういう企画があればこのような企画を行えば良いではないかという案を頂いた。他に頂いた意見としては,「田植え」「海で何かを行う」という意見が出ていた。これは学生にはいい体験だと思う。田植えは今回の「案山子作り」を行ってわかるように，横山地区には多くの田んぼがある。「この一部に学生が苗を植えてみる」という企画という風にとっていいだろう。家に田んぼがない限りは，田植えを経験したことがある学生は少ないだろう。自分たちが普段口にしているお米を作ることがどれだけ大変か知ることが出来るし，改めてお米の大切さを知ることができると思う。だが，横山地区をアピールするという事になれば，ただ田植えをするだけなので，強い宣伝効果は見込むことが出来ないと思う。

海で何かを行うという企画は，田植え同様にアピールするには良い企画である。それは，金沢の海と比べて珠洲の海はやはり奇麗なのである。事実金沢から珠洲に遊びに来た人々は，海を見て「この海きれいやな」,「ナマコとか底の方におる魚まで見えるよ」と言っていた。珠洲の海に入ったことがない人にぜひ一度体験してほしい。しかし遊びに来て海に入ることと，行事を行う上で海に入ることでは，性質がまるで違う。遊びに来て海に入るだけなら，海水浴や釣りをするだけで満足するだろうが，企画の一環で海に入るという事になれば，学生が初めて体験するようなことを組み込まなければ，企画としての経験値を得ることが出来ないと思う。海を企画の会場にするのはいいが，１人１人の学生が真剣に取り組み，ルールを守らなければ本当に命を落としかねない。池上ゼミで行っている「オープンピアッツァ」でも海を会場にして行ったことがあるが，その時は再審の注意を払ってこども達を監視していた。そして，学生にとって地元の高齢者と関わり合って話をすることはとても重要なことであると考える。それは街育ちの若者と田舎育ちの年寄りが意見を出し合う事で，昔ながらの考え方と現代の考え方とを比べることが出来るし，両方の考え方のいい所を合わせて使う事が出来る。この様な小さなことの積み重ねることで，１歩ずつではあるが，よりよい企画を

行う事につながっていく。そのことの積み重ねが珠洲市のアピールとゼミ活動の向上につながると思われる。

6.　調査研究の自己評価

私達学生にとっても一つの良い経験となったとともに，過疎地域と言われる土地で少し，力になれたのではないかという気持ちになれた。帰りに，田んぼ道を通るときにも非常に目立っており，今後もどんどん案山子を作り，田んぼ一面案山子にして，「狼煙町の案山子を見に行こう」という位の観光物になることを願う。

また，案山子を作る中で狼煙町の人々の交流もあった。その中には世界を周ってきた夫婦もいた。狼煙町という小さい地域になぜ住んでいるのか聞いたのだが,「人々の温かさを感じた」「スローライフをしてみたかった」などとおっしゃっていた。日本の素晴らしさは，この様な田舎の風景や，生活が一番しっくりくるのではないだろうかとも感じた。世界を周り，日本に戻った時，日本の良さを，日本を感じたいと思った時，一番しっくりくるのは，やはり田舎ではないだろうか。ご夫婦は，この狼煙町で住むことを非常に誇りに思っていたし，すごく幸せそうであった。そして，狼煙町の住人として，狼煙町の活性化に取り組んで行こうとしている思いや姿も素晴らしかった。

今回企画を行った横山地区という所が少しでも有名になればいいと思っている。横山地区は珠洲の町の１つであり，石川県の最北端に位置しているという事で，割と多くの観光客が多く訪れる場所である。横山地区に観光客が訪れるという事は，珠洲に人が訪れるという事であり，横山以外の町も必然的に通るという事になる。例えば,「見附島」「恋路海岸」「各町内の祭り」なども一緒に見てもらえる可能性がある。そうすることでより多くの人に，珠洲の町を見てもらう事が出来るし，珠洲市の人口が変わらなくても，観光客が増えることで珠洲の町に，少しでも活気が出るかも知れない。もしかすると，訪れた人が「珠洲は何にもないけど，ゆったりした雰囲気だしちょっとなら住んでみてもいいかな」とか「この季節に毎年訪れたいな」という気持ちを持ってくれるかもしれない。そういう事が珠洲の町に活気を戻すための１歩であると作者は考えている。今回は横山地区と金沢星稜大学とが連携して「案山子作り」という企画を行ったが，たかが１回の企画で「珠洲の町の活性化につながる」とは思ってはいない。「活性化という言葉は簡単に使っていいものではない。学生が１回の企画を行ったからといって，そんなに効果はない。何回も何十回も企画を考えて，行い失敗しながらその地域に認めてもらい，恒例の行事になる。そうして初めて，インターネットやロコミでそのことが広がり，人が訪れるきっかけになる。そうすることが，始めて活性化につながる。」本当にそう感じた。今回「案山子作り」を行ったことで，横山地区の方々には,「これが毎年続けば横山での有名な行事になっさかいにまた来年もぜひ来てくだし」や「今年は４０体とちょっとしか案山子できんかったけども来年は１００体ほど作って，案山子サミットて名前でできたらいいなあ」と言ってもらう事が出来た。１回目でこれだけの好印象を持ってもらえたことは，ゼミ活動としても，地域としても手ごたえとしては十分だったと感じる。これを機に来年も横山地区でゼミ活動を行う時には，地域住民の声により多く答えることができ，より良い活動ができると思うし，地域の立場としても，よりよい宣伝効果を得ることができると思う。ぜひ来年も横山地区と連携して活動を行い，金沢星稜大学・横山地区ともに，１人でも多くの人に名前を知ってもらいたいと思うものである。